

## 保育計画成果報告書

法人名等	リックキッズ株式会社
施設名	プチリック北小金園第三
報告者（役職）	萬徳 明日香（園長）
住所・連絡先	千葉県松戸市小金きよしヶ丘 1-1-2 大島レジデンス 1-B
	☎ 050-1743-0666 E-mail p-kitakogane@p-lic.jp

### ○タイトル（保育計画）

心と身体をはぐくむ全身遊び

### ○主な助成備品

ビックコーナーキット・リトルトンネルキット・ステップマット

## 1. 保育計画策定の目的

新型コロナウイルス感染症が社会問題となってから数年が経ちました。現在は5類感染症となりましたが、当園が開園した2022年度は乳幼児の感染者数が急激に増加した時期でもあります。

そのような社会情勢の中でも園庭がない小規模保育園の私たちは、晴れた日は戸外に繰り出しますが、予防接種も進まずマスクを常時使用できない0～2歳児の子ども達の集団を見て、感染を心配するがゆえの風評被害に合うこともしばしばありました。

そして、色々な制限や我慢を強いられているのは大人だけではなく、子どもも然りでした。

一日の多くの時間を保育園で過ごす子ども達のためにまた、大切な“いま”を過ごす子ども達に天候に左右されることなく、安定した有益な刺激を提供して、未来へと繋がる心と身体を発達させることができる保育環境を整えるにはどうしたらいいか、また一人ひとりに合わせた多様な遊びの環境を室内で整え、更に乳幼児期は、神経機能の発達が著しく、身体的活動を通して将来に渡っての体力・運動能力を高めることが重要であると考えました。

散歩だけに留まらない、いつでも子ども達の「やりたい！やってみたい！」を叶える運動遊びを日々粘り強く意欲的に取り入れることで、当園の保育方針でもある「自己肯定の力」をはぐくむことに繋がることを期待しています。

## 2. 具体的な実施内容

【0歳児】平面に小山程度の段差をつけて、マットを設置する  
容易にクリアして十分な達成感を繰り返し感じ、楽しめるようなサーキットにする



ハイハイやたっちと子どもの視野が広くなり、さまざまなものへの興味関心や好奇心が芽生える時期なのでマットの感触を味わう

保育士がハイハイで遊びに誘うと夢中でマットの上をハイハイして楽しむ様子があった



小さな小山を慎重に登る、階段は両手と両足を使って登り、降りる際には横向きになって片足ずつ降りる

ハイハイでもマットが敷いてあるカーブをきちんと曲がって、考えながら進む行動も見られた



トンネルを設置して保育士が反対側から呼ぶと、ハイハイでくぐる際には自ら頭を下げてくぐり進む姿があった

さまざまな障害物を加えても楽しく遊ぶことができた

【1歳児】0歳児のサーキットとの違い

凹凸の量を増やして、難易度を上げる

保育士を模倣しながら繰り返し遊んでいるうちに

補助を必要とせず上手に登り降りができるようになる



初めは各コーナーに保育士がついて、好きな所からコーナーに入っていくトライし始めた

トンネルにも躊躇することなくどんどんくぐっていく



保育士の手を握って慎重に渡る子や自分で駆け上がり、下りることができる子とさまざまだが、繰り返すうちに高さのあるマットにも手をつかずに立ち上がれるようになってくる



飛び始める位置も考えて高くジャンプする

着地の時は両手をパーに広げて、きちんと両手をつく

保育士の補助の手をつかむことなく自らジャンプして、転ばないように両足で踏ん張って着地する

【2歳児】さまざまな高さのマットを設置して、上り下りにチャレンジする

子ども達の意見を十分に取り入れて形を変えてみたり、安全の担保をしながら必要以上に補助をせず見守る



コーナーを設置するとすぐサーキットが開始されるが、並んで順番を待ち自分のスタートがくることを楽しみにしている



サーキットを回る回数を重ねると、両手を広げてバランスをとりながら渡る子、ハイハイで渡る子と思いつきの渡り方を表現して楽しんでいた



きちんと両手をついてから片足をマットへ移動、慎重に次のマットへ移る



高さのあるところには、全身を使ってよじ登る

ジャンプして軽々登ってしまう子も出てくる



より高く、より遠くへ飛ばうとチャレンジする姿もどんどん出てくるようになる

下に敷くマットがあるため、繰り返しおこなうことでダイナミックに高く遠くへ飛ぶことができるようになる

### 3. その成果と評価

大型マットを使った遊びを保育に取り入れることで、子どもが自ら体を動かし、多様な動きを楽しみながら体幹を鍛える等の活動ができました。

そのためには、子どもが安定して活動に取り組める環境作りに配慮しておこなうことが重要です。

マット遊びを通して、いろいろな楽しみ方や身体機能向上効果が期待できると感じました。

## 年齢別の成果と評価

### 【0歳児】

ハイハイやつかまり立ちの頃で、まだバランスが取りにくい時期には転倒した時の怪我を防ぎながら自由にマットの上を動き回ることができました。

月齢の低い時期には、マットの感触を楽しみながら、自由に身体を動かして遊ぶ姿が見られました。

またマット遊びで保育士とのスキンシップを通して更に愛着関係や信頼関係のはぐくみに繋がられたと感じています。

### 【1歳児】

つかまり立ち、ひとり歩きと移動範囲の広がり頃で、自らバランスを取って歩こうとバランス機能を高めることができていると感じています。月齢によっては、足元がマットのふわふわに捕らわれないように足裏でしっかりと踏ん張って歩くことや小走りで移動できる子どもも出てきました。

特に自らマット遊びに興味を持って運動しようとする姿が見られました。

### 【2歳児】

高さのあるマットの上り下りを繰り返す等の身体機能向上を図れるようにサーキットの設定をしました。

マットの上やサーキットでのさまざまな運動遊びを通して身体能力を高め、運動する楽しさや喜び、友だち同士でのルールを学んだり、コミュニケーションを取り合いながらたくさん体験や経験を通して期待以上に心の成長にも効果があったと感じています。



マットに抱きつき嬉しさや喜びを表現する姿が見られます

## 4. 今後の課題と展望

マットをやりたい、子ども達が使いたいマットやサーキットの形を取り入れるといった子ども達が遊びを選択、設定することで展開していけるように活動しています。今後も子ども達の「自分がやりたいこと」を見つける力をはぐくんでいけるよう、そしていろいろなことに興味を持ち、自ら「やってみよう」と何事にも挑戦していくという当園の保育理念を継続的に実践するために一人ひとりの個性を尊重し、自ら学び考えていける環境の中で人と関わりながら自己の主体性を形成していくことができるよう、これらのマットを存分に活用して天候等の外部環境に左右されることなく、心と身体をはぐくむ全身遊びを継続的に展開していきたいと考えています。

以上